

～ルールを学ぶだけではない、乗る技術を！～

自転車・交通安全教習

概要

子どもたちにとって自転車は初めての乗物であり、重要な移動手段です。自転車を安全に使うためには「曲がりたい時に、曲がりたい方向に曲がれる」「止まりたい時に止まれる」という当たり前のことが当たり前できないと、自分だけでなく誰か他の人を傷つけてしまうかもしれません。実際に2013年には、神戸で自転車に乗った小学生が交通事故を起こし、保護者に約9,520万円の損害賠償が命じられたケースが発生しました。

このような痛ましい事故から子どもたちの未来を守るためには、車の運転に教習があるように、従来のような「被害者」教育だけでなく「加害者」を想定した交通安全教習が必要です。ですが、そうした機会はまだまだ多くありません。

私ども(株)地域資源バンク NIU は「自転車のまちプロジェクト」として三重県多気町から委託を受け、交通安全教習を実施しています。当日は子どもたちの関心をひくために、プロ選手が参加してくれることもあります。

内容は、従来の交通安全「教室」とは一線を引くもので、自動車学校のような実技「教習」レベルで、緊急時の急ブレーキのかけ方など、より実践的な内容を実演と練習を織り交ぜて実施しています。

交通安全教習は子どもたちの未来を考えれば社会的に求められる重要な取り組みです。



講師プロフィール

■ 西井 匠 (にしいたくみ)

マウンテンバイク日本代表チーム現ヘッドコーチ、北京オリンピック(2008)マウンテンバイクチーム監督、三重県自転車競技連盟理事、シンガポールユースオリンピック(2010)自転車チーム総監督

■ 鈴木 恒久 (すずきのぶひさ)

愛知県マウンテンバイク協会会長
愛知県自転車競技連盟理事

■ 山上 伸夫 (やまがみ のぶお)

愛知県マウンテンバイク協会理事



内容

乗りもの基本である「走る・曲がる・止まる」を自転車の専門家と一緒にしっかりと学びます。また、その時々に応じたルールや罰則などを警察署の方からご説明いただきます。

プログラム(例) 90分

- 先生によるプログラムの説明
- 警察署・交通指導員の方による交通安全講話
- 実技指導・交通ルール解説
- 前半:「止まる」緊急時の急制動
- 後半:「曲がる」パイロンのジグザグ走行
- 講師によるまとめ
- ※時間的に余裕があれば「走る」:一本橋走行
- 先生によるまとめ・生徒挨拶

これまでの活動実績 (のべ 1359 名 教職員含まず)

《三重県》

佐奈小学校
外城田小学校
勢和小学校
勢和中学校

《愛知県》

春日井工業高校
半田東高校